

CASBEE神戸ver.3

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日東物流(株)倉庫新築工事	階数	地上1階
建設地	神戸市中央区港島4丁目6-1	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	17人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,400時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年7月 予定	評価の実施日	2024年2月20日
敷地面積	26,379 m ²	作成者	株式会社K設計
建築面積	4,277 m ²	確認日	
延床面積	4,421 m ²	確認者	



日東物流株式会社・倉庫新築工事完成予想図

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 2.9**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.9

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 2.7**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 0.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.7

3 CASBEE神戸の重要項目		
バリアフリー計画 Q-2/1.1.3 バリアフリー計画 0.0	建築物の耐震性等 Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振 3.0 Q-2/2.4 信頼性 1.0	まちなみ・景観への配慮 Q-3/2. まちなみ・景観への配慮 4.0
配慮の概要 0	配慮の概要 0	配慮の概要 0 外壁面に壁面緑化を設置し、環境及び景観への配慮しました。
その他の配慮事項 0		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)
日東物流(株)倉庫新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄				評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.9
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル								1.0		
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能								1.0		
2 界壁遮音性能								1.0		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						1.0		1.0		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						1.0		1.0		
1.3 吸音								1.0		
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温								1.0		
2 外皮性能								1.0		
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御								1.0		
2.3 空調方式								1.0		
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率								1.0		
2 方位別開口								1.0		
3 昼光利用設備								3.0		
3.2 グレア対策										
1 昼光制御								1.0		
3.3 照度								1.0		
3.4 照明制御								1.0		
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質								3.0		
4.2 換気										
1 換気量								1.0		
2 自然換気性能								1.0		
3 取り入れ外気への配慮								1.0		
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										
Q2 サービス性能							0.43			2.9
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性								1.0		
2 高度情報通信設備対応								1.0		
3 バリアフリー計画										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観								1.0		
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
2 耐用性・信頼性						2.3	0.50			2.3
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数						2.2	0.30			
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						1.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						3.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔						1.0	0.20			
2.4 信頼性						1.0	0.20			
1 空調・換気設備						1.0	0.33			
2 給排水・衛生設備										
3 電気設備						1.0	0.33			
4 機械・配管支持方法						1.0	0.33			
5 通信・情報設備										

3 対応性・更新性			3.6	0.50	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高を9.0mとし空間にゆとりを持たせた。	5.0	0.60	1.0	-	
2	空間の形状・自由さ	1区画を約1500㎡とし大きな空間とした。	5.0	0.40	1.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	2.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		-	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.67	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.33	-	-	
4	通信配線の更新性		-	-	-	-	
5	設備機器の更新性		-	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		-	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	2.9
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		壁面緑化を設置しました。	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			1.5	0.30	-	-	1.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		1.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	2.7
LR1 エネルギー			-	-	-	-	-
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			-	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 1.00	-	-	-	-	-
4 効率的運用			-	-	-	-	-
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	-
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-
集合住宅の評価			-	-	-	-	-
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.50	-	-	2.7
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			-	-	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	1.00	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.14	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.29	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.29	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	-	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.29	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.2	0.20	-	-	2.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない材料とした。	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			1.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		1.0	1.00	-	-	
3	冷媒		-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.50	-	-	2.7
1 地球温暖化への配慮			-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮			2.6	0.50	-	-	2.6
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車場の台数確保と、従業員の公共機関利用の推進をしている。	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.8	0.50	-	-	2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		-	-	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	1.00	-	-	
3.3 光害の抑制			2.3	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		2.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	